

**第2次21世紀矢板市総合計画 重点項目提言書**  
**策定検討委員会**

平成22年11月

## 第2次21世紀矢板市総合計画 策定検討委員会 重点項目提言書

本提言書は、「第2次21世紀矢板市総合計画策定検討委員会」の後半（第8回から第14回会議）において、「第2次21世紀矢板市総合計画（以下「次期総合計画」）」の「基本計画」について検討を行った結果を集約したものです。

### 検討の経緯

「策定検討委員会」では、「次期総合計画」の「基本計画（施策の展開）」を検討するに際し、「次期総合計画」の「基本構想」で定めた5つの「重点項目」の構成に基づき、これからの矢板市に求められる施策や事業を検討した。

検討に際しては、2つのグループに分かれて検討を進め、最後に双方の意見を集約した。

- 第8回（H22.5.20） 「市民アンケート分析結果による施策の検討」（全体会）
- 第9回（H22.6.18） 「基本計画、重点項目の検討」グループワーク、意見交換
- 第10回（H22.7.29） 「基本計画、重点項目の検討」グループワーク
- 第11回（H22.8.19） 「基本計画、重点項目の検討」グループワーク
- 第12回（H22.9.16） 「基本計画、重点項目の検討」グループワーク、意見交換
- 第13回（H22.10.6） 「基本計画、重点項目の検討」グループワーク、意見交換
- 第14回（H22.10.28） 「基本計画、重点項目の検討、まとめ」全体会
- 第15回（H23.1.27） 「基本計画（素案）、重点項目提言書、（素案）」検討（全体会）

第1回（H21.10.14）～第7回（H22.4.22）においては、「矢板市の特性（良いところ、悪いところ）」、「現状と課題」についての検討などを経て、「基本構想」に対する検討を進め、その結果を平成23年3月「中間提言書」として取りまとめた。

### 検討項目

具体的な検討項目としては、以下の5つの重点項目について、矢板市の現状や特性、課題等を踏まえ、具体的な事業を検討した。

#### 【重点項目】

- 市民力の向上
- 教育重視のまちづくり
- 子育て医療環境の充実・高齢者の生きがいづくり
- 公共交通機能の拡充
- 産業の活性化

## 重点項目 .[市民力の向上]について

### [テーマ 市民参画によるまちづくり]

#### 目標：１ 「しくみをつくる（市民力を発揮する仕組みづくり）」

「まちづくりに参加したいが手法がわからない、気軽に参加したい」といった潜在的な市民力を活性化させるため、これまで縦割りだったボランティアやNPO団体の結びつきを設け、広く市民に認知される仕組みをつくる必要がある。

#### [施策の展開]

##### 市民が参加しやすい仕組みづくり

##### ・「ボランティアセンター」の設置運営

ネットワーク確立のための支援体制を充実するため、「中核となる組織（団体、企業、行政、個人の連携）」を設置し、市民ボランティア活動の核として活用する。

##### ・「公募制ボランティア事務局」の活用 「人材（人財）バンク制度導入」

「ボランティアセンター」を運営するためには、事務局の役割が非常に重要である。事務局の運営も含めて、ボランティアを公募・登録制とし、市民の参加を推進する。登録に際しては、PCなどを積極的に活用する。

##### ・「ボランティア活動者へのポイント制度」の導入（商店街カードとのタイアップ）

市民のボランティア活動に対する積極的な参加を支援のため、市民がボランティア活動を行った時に、その内容に応じてポイントを与える。商店街と連携しポイント相当分の買い物優遇制度などを設けることにより、参加機会の拡充を図ると共に、矢板市の商店街への貢献を図る。

##### ・「充実感があるイベント開催」

市民力向上のためには、市民がボランティア活動に参加してよかったと思える環境が大切である。市民と行政の協働によるイベント開催などを通じ、参加機会の充実を図る。

##### 「交流の場の提供」

##### ・「3公民館の充実」

コミュニティー活動の枠組みとして、旧町村単位が最も望ましいことから、矢板・泉・片岡それぞれに設置されている3つの公民館を活動拠点とし、施設を活用した活動の充実を図る。

##### ・「廃校の開放」（集いの場所として活用）

市民が気軽に集まり、まちづくりに対する意見交換・交流の場所として廃校施設を活用する。市民が利用する際は、敷地内の草刈りなどボランティア活動を行う代わりに、利用料を無償とする。

##### ・「駅前コンフォート」 「矢板武塾」などの活用

## 目標：2 「人をつくる（まちづくりのための人材育成）」

「潜在的」なボランティア力はあるが、必要などころへそそがれていない。市民力向上には、行政からの支援体制が必要である。地域と行政との連携を推進するため、地域担当職員制度の導入による市民力のけん引役として、市職員の地域配置が必要である。

行政から、研修・講座の開設など学ぶ機会を通じて、市民力の向上(やる気のある人の育成)を図る。研修受講者をリーダーとして講師の育成や、市民の中で、様々な分野で活躍している人を講師として講座や研修会を設け、市民同士で学ぶ機会をつくっていく。

次世代を担う人づくりを進める中で、青少年の健全な育成を図るために、男女の出会いが重要であるが、その機会が少なくなっているため、イベントなどを通じ出会いの場を創設する。

### [ 施策の展開 ]

#### 市民力向上のための行政支援

・市民活動情報の提供、公募制ボランティア登録などの情報管理を効率的に行うため、行政が情報収集・発信を一元的に管理する。その手段として「市民力掲示板」としてホームページに専門窓口を設け、ネットワーク登録、活動PRなどを総合的に実施する。

・「地域担当職員」を各地域に配置(200人で60行政区：1地区3人程度)し、行政と地域の連携を強化する。

#### 市民力づくりのための研修・講座の実施

・「シルバー大学の年齢制限(下限)撤廃」により、世代間の交流が図られるとともに、大学全体の活性化が図られる。

・「100人の達人による市民講座」として、様々な分野において精通した人達をその分野の「達人(講師)」とし、市民対象の様々な講座(原則無償)を開設することにより、参加者の生涯学習機会の充実が図られる。また、講師になる方についても、セカンドライフの充実、社会貢献意識の向上が図られる。

(農業講座 ひょうたんづくり講座 山あるき・山菜取り講座)

#### 若者(青少年)の交流機会の拡充

・次世代を担う若者(青少年)の健全な育成を図る中で、男女の出会いの場を創設することが必要であり、少子化の解消にもつながることが期待できる。

「25才 or 30才の成人式」など様々なイベントを開催することにより、出会いの場の機会を提供する。

## 重点項目 .[ 教育重視のまちづくり ]

### テーマ1 「学校外での教育」

#### 目標1 「放課後教育の充実」「世代間交流による教育」

言葉の大切さが失われつついる。挨拶をはじめ、言葉の大切さ、話す姿勢（目を見て話すこと）などを教えることが大事であり、コミュニケーションの基本である。核家族化、少子化により子どもが孤立していることが多く、親世代も無関心である。世代を超えた教育（交流）の機会・場所の提供により、これらを教えることが重要である。

子どもが安心して遊べる場所が少なくなり、また核家族化などにより子どもたちが集団で過ごす機会が減少している。放課後の居場所を確保し、集団で過ごすことにより社会性を育て、コミュニケーション能力の向上を図る。

#### 施策の展開

##### 放課後教育の充実

・学校施設を地域に開放し、地域のボランティアが交代で、課外活動等を行うことにより、地域との結びつきやコミュニティーの形成を図る。

##### 言葉の教育（あいさつのできる子を育てる「あいさつのできるまちづくり」）

・「正しい言葉づかい教室」、「正しいあいさつの仕方教室」などを通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。

#### 目標2 「地域による教育」「ふるさとに愛着を持たせる教育」

ふるさとを愛し、大切にする心を育て、また地域がそれを支えることにより、若者（二男、三男）のUターン促進など定住促進につながっていく。

矢板のよさを見つけながら、ふるさとへの誇りや愛着心を持たせることが大切である。育成会がイベント化している。「地域の教育力」を高めることが大切である。

#### 施策の展開

##### 地域による教育

- ・「地域自慢（よさ発見発掘・矢板検定）」や「伝統芸能継承教室」、「お祭り参加（おはやし大会）」などを開催し、地域に対する愛着心を育てる。
- ・自然体験教室などを通じて、心身のたくましさを身につけさせる。
- ・ものを大切にする心が失われている。子どもの健全な成長のために、きちっとした食生活（食育）の習慣を身につけるとともに、ものを大切にする心を育てることが必要である。「もったいない」を教える。

・これらのことは、特に最近の子どもを育てる親の世代に対しても、同様の教育が必要である。子育てに関して、食育やしつけの方法などとともに、特に子どもとの接し方について大切なものが欠けている。（授乳しながら片手に携帯でメールなど）子どもとともに親教育（親世代の学びの場）が必要である。

## テーマ2 「学校での教育」

### 目標1 「地域との連携」「ふるさと（学校）に愛着を持つ」

教育方針や課程編成の意図などを公表（透明化）することにより、地域との連携が図りやすくなる。

学校において、郷土愛を育て、他人を敬う教育を重点的に進める。

子供たちにとって、学校施設が明るくきれいで使いやすいことが、学校を嫌いにならない重要な要素である。学校を好きになることが、ふるさとに愛着を持つことに繋がることから、学校施設の環境向上を図る。

#### 施策の展開

##### 地域と連携した教育

・教育委員会にて審議される教育方針や教育課程編成の経緯を一般公開し、地域・家庭と情報を共有することにより、相互の連携が図りやすくなる。

##### ふるさと（学校）に愛着を持つ教育

・地域が学校教育の支援を拡充するため、空き教室を積極的に解放し、放課後教室などの利用増進を図る。

・学校は、子どもたちが集団で生活する「社会」であり「ふるさと」の入口である。その施設が壊れていたり汚かったりと環境が悪いと、学校が嫌いになる大きな要因であり、学校が嫌いでは「ふるさと」を好きにならない。

学校施設の環境整備として、全小学校グラウンドの芝生化や、老朽箇所（塗装等）の修繕などを進めることが重要であるが、経費を削減するため、保護者や地域ボランティア等を積極的に活用しながら実施する。

##### 論語教育の実施

・人間関係が希薄化している。子どもたちに社会性を身に付けさせるためには、周囲の人を敬い大切にする道徳心を学ばせることが必要である。そのために、「論語教育」を取り入れる。

## 重点項目 .[ 子育て医療環境の充実 高齢者の生きがいづくり ]

### テーマ1 [ 子育て環境の向上 ]

#### 目標1 「子育て環境の向上・子育てする親への支援」

子育てには、特に人とのふれあい（コミュニケーション形成）が重要である。近年は放任傾向が強まり、子育てに関心の薄い親が増加する傾向にある。子育て環境の向上には、地域全体で親育てに係わるとともに、子どもと一緒に親育てを行う。

現在の核家族化により、世代間の交流が希薄化している。かつては3世代同居による日常生活の中で、子どもたちに様々な知恵を伝えた。世代を超えた交流を図ることが、多様な人材の育成・子育て世代の負担軽減・高齢者の生きがいづくりとなる。

#### 施策の展開

##### 地域のかかわり

- ・地域住民による「子育てボランティア」を組織化するとともに、それらボランティアをネットワーク化し、横断的に連携を図ることが出来る組織を構築する。
- ・子育ての専門的な資格を有する人（保育士等）を登録制とすることにより、子育ての支援が必要な人へ提供しやすくする。（人材バンク登録制度）

##### 子育てしている親への支援

- ・子育て中の親に対する周囲からのサポートとして、「子どもの育て方教室」などを開催し、子どもの育て方の伝授や悩みの解消などを行う。また、「子育て中の親リフレッシュ事業」などにより、育児に対する精神的な負担の軽減を図っていく。

##### 世代間交流による子育て

- ・次世代を担う子どもたちに、高齢者が持つ豊富な知識・経験、道徳などを、世代間の交流機会を通じて伝える。（農業を教える、自然の中で一日過ごすなど）

##### 子育て環境の向上

- ・日常的に身近な場所で、延長保育、預かり保育、病児病後児保育などの総合的なサービスが受けられるようにする。その核として、ワンストップサービス拠点（福祉110番）的な窓口を設け、相談・支援態勢を確立する。

## テーマ2 [高齢者の生きがいづくり]

### 目標1 「高齢者の日常を支える・高齢者の知恵を生かす・高齢者の外出を促す」

高齢者の健康維持・生きがいづくりのためには、高齢者同士のつながり（集いの場所）があること、そして社会貢献などを通じて生きがいを持つことが大事である。高齢者が培った経験（知恵）を生かして、子どもたちの体験学習などを行う場を創設する。

#### 施策の展開

##### 「高齢者集いの場」確保

・小学校にある空き教室などを「高齢者の集うスペース」として、「身近な場所での生きがいづくり拠点」として活用する。児童、保護者、学校関係者等との交流機会が増加し、様々な相乗効果が期待できる。さらに、放課後教室的な活用をすることにより、高齢者の知識、経験を子どもたちへ伝承していく取り組みを通じて、高齢者の社会貢献意識の向上に繋がる。

##### 世代間交流による子育て支援

・高齢者の時間的余裕を活用し、子育て中の親へ子育ての協力をする代わりに、買い物代行や移動時の相乗りなど、相互の助けあいを促進し、世代間の交流を図る。  
・高齢者の長年の経験や知恵を活かし、次世代に様々な体験教室や講話の機会を設け、「本物の豊かさを教える教室」、「高齢者による農業教室（農家民宿）」等を実施する。  
・最近、都会との交流の場が増えている。都会の子を田舎で受け入れ、自然体験や農業体験ツアーなど「高齢者による都市との交流」として実施すれば、矢板市のPRや観光などの活性化にも繋がる。

## テーマ3 [医療環境の充実]

### 目標1 「年代に応じた医療環境の充実」

医療環境の充実では、特に救急時における体制の充実が不可欠。救急病院の更なる拡充とともに、子育て環境の向上のために、予防体制の推進が望まれる。高齢者の要介護者が増加していく中で、介護者間の相互連携を向上させるネットワークづくりが必要。

#### 施策の展開

##### 救急医療体制の充実

・医師不足が救急医療体制の低下を招く要因である。医療エリアを見直し（救急医療圏の再配置）とともに、医師の確保策として若手医師への育成支援制度を設ける。

##### 子育て医療の充実

・疾患予防、健康増進事業の充実を図る。

##### 高齢者医療の充実

・介護者・要介護者間のネットワーク構築のため、核となる組織を設置し、相互連携を図る。

## 重点項目 .[ 公共交通機能の拡充による市勢発展 ]

### テーマ 1 [ 公共交通施設整備の促進 ]

#### 目標 1 「東北自動車道の機能を拡充する」

矢板市の活性化対策として、「東北自動車道」や「国・県道」「JR線」など県内外から多くの人々の往来する施設の機能拡充を図る。また、休憩施設などの拠点施設を整備し機能増進を図る。拠点施設を核として、矢板の良さを売り出すPR活動やイベント等を実施して、矢板の素晴らしさを広く市内外にPRする。

#### 施策の展開

##### 東北自動車道の整備促進。矢板北PAの活用。

- ・東北自動車道の6車線化整備を促進する。
- ・矢板北パーキングをハイウェイオアシス的に活用する。車をパーキングに駐車したまま、利用者(人)が高速道路区域外に出られるところを活用し、それを発展させ、周辺にレンタサイクル施設などを設置し、自由に利用してもらう。
- ・それら利用者が主に泉地区周辺の観光地や農園、道の駅・山の駅等の利用が可能なように、バスによる周遊ルートなどを確保する。
- ・矢板北スマートインターチェンジとして活用する。

#### 目標 3 「道路の機能を拡充する」

新設する「道の駅やいた」を活用して、環境都市宣言を踏まえ[環境]をテーマにしたイベントの開催や、矢板の豊富な農産物のPRを行い産業の活性化を図る。

市内の道路網は整備が進んできているため、これ以上道路を新設する必要性はあまり感じられない。むしろ、新たな道路をつくるよりも、既にある道路の中で、高齢者や障がいのある人が使いづらいところ、特に歩道の段差の解消(バリアフリー化)など質の向上を目指すべきである。

矢板市の市街地は、全般的に暗いイメージがある。道路照明の増設など、明るいまちづくりを目指し、中心市街地等の景観の改善に取り組む。

市民の利便性向上と高齢者や障がい者にやさしいまちづくりのため、JR駅のバリアフリー化などを進める。

#### 施策の展開

##### 道の駅の活用

- ・新設する道の駅を積極的に活用し、「矢板の名所・名物PR事業」等を実施し、矢板の知名度アップを図る。

##### 道路整備の促進(量的な整備ではなく質的な向上)

- ・歩道の幅が狭くでこぼこな道や、T字路など行き止まりの道路が多い。これらを解消しながらバリアフリー化を進め、高齢者などにもやさしいまちにしていく。
- ・歩道幅の狭い市街地内の道路(前新道路など)は、思い切って車道を1車線化し、所々に滞留所(車のすれ違う場所)を設置する1.5車線道路的に改修し、歩行者優先の道路とする。

・「明るい矢板市」を目指し、特に中心市街地においては、道路照明を増やす。また、空き地や空き店舗の有効利用を進める。

#### **鉄道の機能拡充**

・片岡駅西口整備・橋上駅化、矢板駅等のバリアフリー化の推進を図る。

## **テーマ2 [公共交通機能の拡充]**

### **目標 「市内の移動手段」を確保する**

高齢化が進み、自動車免許証を返納する人が増加している。公共交通として、市営バスの担う役割は一層増加するため、利便性の向上が強く求められている。

高齢者の生活支援として、若手世代の子育て支援を高齢者が行う代わりに、子育て世代が高齢者の買い物サポートや日常生活サポートなどを行うなど、子育て世代との世代間交流を図るための仕組みを作る。

### **施策の展開**

#### **市営バスの利便性向上**

・高齢者が増加することにより、日常生活の交通弱者が今後ますます増加する。市営バスのデマンド化など新しい手法を導入する。  
・タクシー会社と連携し、公共交通の支援やデマンドタクシー事業の展開を図る。

#### **高齢者の生活支援**

・「買い物お使いサポーター制度」として、若手世代が高齢者などに子育てへの支援を受けた分のお返しとして、買い物などの送迎や代行などの生活支援を行う仕組みを作る。

## 重点項目 .[ 豊かな自然の利活用による産業の活性化 ]

### テーマ1 [ 豊かな自然を「資源」とする ]

#### 目標 「自然資源」を活用する 「環境都市」をPRする

矢板市には、雄大な高原山をはじめ素晴らしい自然環境がある。この豊かな自然環境を「資源」としてとらえ、矢板の産業を活性化するための「素材」として活用する。高原山などの自然は、私達市民が思っている以上に市外の人からの評価が高い。これらを活用し積極的にPRすることにより、活性化を図る。

矢板市は平成21年に環境都市宣言をした。世界規模で環境に対する取り組みが行われている中で、この「環境都市宣言」に基づく様々な環境関連対策を展開し、環境保全意識の啓発とともに、本市の豊かな自然資源を積極的に市外へ発信し、観光・サービス業などの振興を図る。

#### 施策の展開

##### 自然をテーマとしたイベントを開催する

・「高原山をモチーフにした絵画コンテスト(コンクール)の開催」により、イベント・入選作の展示会を通じて矢板市をPRする。写真と違って絵画は長期間滞在しないと描けないため、交流人口の増加にも寄与するとともに、商業・サービス業の振興にもつながる。

##### 豊富な森林・水資源・田園の活用

・豊かな森林資源をバイオマスエネルギーとして活用する。「ペレットストーブの設置」をはじめ、「電気自動車」、「太陽光発電」などの普及をめざし、設置者への助成、市内公共・公益施設への積極的な導入などを通じて、「環境に配慮した持続可能なまち」全国1位を目指すことを市外に積極的に発信し、矢板の知名度向上を図る。

・環境都市宣言を踏まえ、新たに「環境の日」を創設し、道の駅などを拠点として、循環型社会構築に向けた啓発活動とともに、本市の恵まれた自然環境「資源」のPRをセットで市外に発信する。

・豊富できれいな水を守り活用する。「水利権」の問題があるが、環境産業・環境共生産業に特化した、企業の誘致を図る。

・豊富な水を活用し、寺山ダムに「マイクロ水力発電施設」を設置し、エネルギーの自給を行う。

・八方牧場等を活用し、循環型農業の体験を行い、市外から人を呼び込む。体験型市民農園(クラインガルテン)的に発展させることにより、週末の交流人口増加につながる。

## テーマ1 [ 矢板 ] の良さを売り出す

### 目標 「矢板」を広める

「高原山トライアスロン」は、競技者の中で「満足度の高い大会」上位に選出されている。近年は、「駅前イルミネーション」や「あんどん祭り」そして秋の一大イベントとなった「花火大会」など、素晴らしいイベントが開催されている。これらを「エコ」などからめ統一的に売り出すことにより、市の活性化を図るとともに、イベント開催を通じて矢板の良さを市外に発信する。

### [ 矢板を広める ]

#### 施策の展開

##### 「矢板」の良さを売り出す

・「食と農による活性化」として、名産・名物料理や土産品を開発し、環境に配慮するなどの付加価値をつけて、道の駅などで市外に発信する。「矢板ブランドの創設」

##### 各イベントを統一的に売り出す

・高原山の観光資源に加え、高原山トライアスロンや花火大会など、市外でも評価の高いイベントをさらに盛り上げるために、これらのイベントを統一的に発信し、短期間滞在型の交流人口を増やすとともに、矢板の知名度向上を図る。

- ・秋の収穫祭と花火大会・マラソン大会のコラボレーション
- ・秘湯めぐり体験ツアー等

##### 積極的なPR支援

・首都圏アンテナショップへの参加など、市外へ情報発信する機会を積極的に設ける。  
・地域の活性化のため、市職員の地区担当制度を導入し、行政と地域の連携を図る。

##### 中心市街地の活性化

・矢板市の産業活性化を図る上で、中心市街地の活性化に取り組む必要がある。道の駅やいた設置にともない、JR矢板駅周辺からの歩行者と道の駅をつなぐため、中間点に「矢板屋台村」など人の集まる場所を設け、相互の交流を図りながら中心市街地の活性化を図る。

・空き店舗や空き地の再利用を図るため、「おためしショップ」として、新規事業参入者・起業者等を支援する制度を新設し、空き店舗等の有効活用を図る。

**第2次21世紀矢板市総合計画 重点項目 事業  
策定検討委員会**

平成22年11月

市民力の向上					
テーマ	目標項目	施策	事業	設定した理由(課題)	
市民参画によるまちづくり	「しくみをつくる」 市民力を発揮する仕組みづくり	参加しやすい仕組みづくり	核となる組織の設置(人材バンク) 活動情報の発信(広報・HP) 公募制ボランティアセンター・事務局設置 PCでのネットワーク登録	「まちづくりに参加したいが手法がわからない・もっと気軽に参加したい」といった潜在的な市民力を活性化し、これまで縦割りだったボランティアやNPO団体等の結びつきを設け、広く市民に認知されるシステムを構築する。	
	交流の場の提供	NPO/各種団体の設立支援 廃校の開放(集まる拠点) 市民・行政・企業・商店の連携づくり 登録者へのポイント付加制度(商店街カード)			
	参加機会の拡充	駅前コンフォートの充実 矢板武塾の充実 充実感を得るイベント開催 気楽にできるゴミ・植え込み整備			
	行政支援	市民力掲示板 地域担当市職員の配置 行政区単位の計画より提案	潜在的なボランティア力はあるが、必要などころへそそがれない。市民力向上には、市職員の積極的な地域貢献が必要。地域担当職員制度(200人で60行政区/1区3人)の導入など、市民力をけん引する職員の配置が不可欠。		
	「人をつくる」 まちづくりのための人材育成	研修・講座の実施・運営	市民活動に協力体制PR		様々な研修や講座の開設などを通じ、市民のまちづくりにたいするやる気を引き出す、やる気のある人を育成する。
	若手の交流機会の拡充	シルバー大の年齢制限撤廃 希望者に対する行政からの人材育成	達人登録による講座開設(農業指導 瓢箪づくり 等)		次世代を担う若者たちの健全な育成を図る上で、男女の出会いの場を創設するため、25才成人式などイベントを開催する。
				25才、30才の成人式	

教育重視のまちづくり

テーマ	目標項目	施策	事業	設定した理由(課題)	
学校外での教育	放課後教育の充実 (こどもの居場所確保)	放課後教育環境の充実	地域の施設の開放	言葉の大切さが失われつつある。あいさつをはじめ、言葉の大切さ(目を見て話すこと)などを教えることが大事であり、コミュニケーションの基本である。核家族化、少子化により子どもがひとりで過ごす時間が増え、また親世代の無関心もある。世代を超えた教育(高齢者からの生きた教育)の機会の提供により、これらを教えることが重要である。	
	世代間交流による教育	言葉の教育(あいさつのできるまちづくり)	サマースクール・ウィンタースクールの充実		
	地域による教育	地域全体で育てる	放課後子ども教室サポート		
	ふるさとに愛着を持たせる教育	ふるさと体験教室	正しい言葉づかいの教室		
	地域との連携強化	育成会の活性化	地域の達人による一芸教室		
	学校での教育	ふるさとに愛着を持たせる教育	ふるさとに愛着を持たせる教育		伝統芸能の伝承教室
		ふるさとに愛着を持たせる教育	ふるさとに愛着を持たせる教育		矢板の自然で遊ぶ力をつけるぞ教室
		ふるさとに愛着を持たせる教育	ふるさとに愛着を持たせる教育		「もったいない」を教える教育
		ふるさとに愛着を持たせる教育	ふるさとに愛着を持たせる教育		食育教室
					親教育(親世代の学びの場)
			矢板の自然で遊ぶ力をつけるぞ教室		
			矢板検定(やいた物知り)		
			お祭り参加(おはやし大会)		
			奉仕活動の義務化	育成会がイベント化(子ども融合)している。「地域の教育力」を高めることが重要。	
			教育方針等のPR		
			審議過程の積極的公開	教育委員会による教育方針等の編成意図や課程が明確になることにより、地域と学校が一体的な連携を図りやすくなることから、これらを積極的に公表する。	
			空き教室の利用促進(柔軟な運用)		
			全小学校グランド芝生化	健全な教育環境が整備され学校が好きになる。	
			地域と連携し矢板に愛着を持たせる教育を実施		
			論語教育の実施	学校教育において、郷土愛を育てる。	

子育て・医療環境の充実と高齢者の生きがいづくり

テーマ	目標項目	施策	事業	設定した理由(課題)
子育て環境の向上	子育て環境の向上	地域のかかわり	地域住民による子育てボランティアの組織 市全体の横断的組織化	子育てとともに親育てが重要。子育てには、人のふれあい(コミュニケーション)が重要であるが、放任傾向が強まる一方である。地域全体で子育て(教育を兼ねる)とともに、親育てを行うことが重要。
子育て環境の向上	子育てする親の支援	子育て中の親への支援(親育て)	子育て中の親への支援(育て方教室) 子育て中の親子フレッシュ事業	子育ては、人育て。核家族化して親が子供と接しない。昔は食事を一緒にとり、3世代間の生活の中で、日常習慣はもとより様々な知恵を学んだ。世代を超えた交流することが子育て負担の軽減とともに、高齢者の生きがいづくりにもなる。
高齢者の生きがいづくり	子育て環境の向上	世代間交流による子育て 身近な場所での総合サービス実施 子育てへの支援者確保	矢板市の農業を教えて育てる 教育指導への参加 矢板の自然の中で一日過ごす 延長保育・預かり保育・病後児保育 有資格者の発掘(人材バンク登録制度) ワンストップサービス拠点「福祉110番」	子育ては、人育て。核家族化して親が子供と接しない。昔は食事を一緒にとり、3世代間の生活の中で、日常習慣はもとより様々な知恵を学んだ。世代を超えた交流することが子育て負担の軽減とともに、高齢者の生きがいづくりにもなる。
高齢者の生きがいづくり	高齢者の日常を支える	子育て世代と高齢者世代の互助	子どもを見てもらおう代わりのおつかい代行 買い物ついででの相乗り制度	高齢者の健康維持・生きがいづくりのためには、高齢者同士のつながり(集いの場所)があること、そして社会貢献などを通じ生きがいをもつことが大事である。高齢者のこれまでの経験(知恵)を生かして、子供たちへの体験学習などを行う場を創設する。
高齢者の生きがいづくり	高齢者の知恵を生かす	世代間の交流による子育て支援	本物の豊かさを教える教室	高齢者の健康維持・生きがいづくりのためには、高齢者同士のつながり(集いの場所)があること、そして社会貢献などを通じ生きがいをもつことが大事である。高齢者のこれまでの経験(知恵)を生かして、子供たちへの体験学習などを行う場を創設する。
高齢者の生きがいづくり	高齢者の外出を促す	高齢者の集いの拠点確保	小学校の空き教室を利用した高齢者の部屋 身近な場所での生きがいづくり 都会の子供を呼んで農業体験	高齢者の健康維持・生きがいづくりのためには、高齢者同士のつながり(集いの場所)があること、そして社会貢献などを通じ生きがいをもつことが大事である。高齢者のこれまでの経験(知恵)を生かして、子供たちへの体験学習などを行う場を創設する。
医療環境の充実	年代に応じた医療環境の充実	高齢者による都市との交流 高齢者の医療・介護環境の充実 救急医療体制の充実 子育て医療環境の充実	高齢者の医療・介護関係施設の充実 介護ネットワークの向上 救急医療拠点の医師増員 疾患予防・健康増進事業	医療環境の充実として、救急時における体制の充実が不可欠である。救急病院のさらなる拡充が必要。また、子育て医療環境として、予防体制の推進が望まれる。

公共交通機能の拡充による市政発展

テーマ	目標項目	施策	事業	設定した理由(課題)	
公共交通施設整備の促進	東北自動車道の機能拡充	本線道路の整備促進	6車線化の促進	県外から多くの人々が往来する場所に休憩所などの拠点施設を整備し利便性向上を図る。	
		ハイウェイオアシス化の促進	周辺リング農園などとのコラボレーション		
		矢板北PAの利活用	サイクルステーションの設置(周辺とのコラボ)		スマートインターの設置
	道の駅の活用	矢板の名所PR事業	矢板の名物PR事業	道の駅において、環境宣言をした矢板を環境をテーマにしたイベントや、矢板の豊富な農産物などを宣伝し、活性化を図る。	
	一般道路の機能拡充	道路整備促進	道路バリアフリー化の推進	前新通り整備(歩行者重視 1.5車線)	道路網は相当整備が進んだ。新たな道路を新設するよりも、現道路の段差解消など、質の向上に取り組む必要がある。また、市街地が全般的に暗い。明るい街にするため照明増設が必要
		中心市街地の整備	明るい矢板推進事業(照明灯の設置)	片岡駅西口整備事業(橋上駅化)	
鉄道の機能拡充		矢板駅の橋上化	駅周辺景観向上(空地・空き店舗活用)		
公共交通機能の拡充	市内の移動手段確保	市営バスの利便性向上	デマンドバス化の導入 タクシー会社への運営委託	高齢化が進み、自動車の免許証を返納する人も増えていく。公共交通としてバスの果たす役割は一層大きくなり、利便性の向上が強く求められる。	
		高齢者の生活支援	買い物お使い サポーター制度	高齢者の生活支援として、子育て世代との相互協力(育児代行と日常生活支援)が必要である。	

豊かな自然環境の利活用による産業の活性化

テーマ	目標項目	施策	事業	設定した理由(課題)
豊かな自然を「資源」とする	「自然資源」を活用する	自然をテーマとしたイベント開催	高原山 絵画コンテストの開催 高原山 入選作品公開イベントの開催 環境の日の創設(道の駅でのイベント) アンテナショップ開設 エコハウスのPR ベレトストブの普及促進	矢板には、雄大な高原山をはじめ素晴らしい自然環境がある。この豊かな自然を「資源」としてとらえ、矢板の産業を活性化するための「素材」とする。 「高原山」など自然は私達市民が思っている以上に市外の人から評価が高い。これらを売り出して矢板PRを図る。 「高原山」などを素材とした絵画展(写真では滞在しない、絵画展で滞在)などを開催する。
「矢板」の良さを売り出す	「矢板」を広める	豊富な森林資源の活用 豊富な水資源の活用 広大な田園環境の活用 「矢板」のよさを売り出す 各イベントを統一的に売り出す 積極的なPR活動の支援 中心市街地活性化対策	環境共生型産業に特化した企業誘致 八方牧場等利用による農業体験 市外からの農業体験(クラインガーテン) 秘湯めぐりツアーの実施 収穫祭 矢板ブランドの創設 矢板ブランドの道の駅でのPR 軽トラ市場・休日市場 花火大会 高原山トライアスロン 地区担当職員の配置 空き地活用「矢板屋台村」 空き店舗活用「おためしショップ」	